

在ペナン日本国総領事・町田信也です。本年5月下旬から6月末までの総領事（館）活動報告をいたします。これら活動の一部については別途総領事X、総領事館HP及びFBでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

6月10日、東京において、高市総理とアンワル首相との間で日・マレーシア首脳会談が開催されました。同首脳会談では、両国の友好関係を確認するとともに、今後の協力についても幅広い形で合意がなされました。また、エネルギー分野を含む経済協力についても議論が行われるなど、実りの多い会談であったと承知しています。今後、両国は、地政学的にも重要な同志国として、自由で開かれたインド太平洋の推進のために協力していくことになろうと思います。我が国においては、7月にも発表されるいわゆる「骨太の方針」において、戦略分野への投資と、「失われた30年」からの本格的な脱却に向けた大きな流れができることとなります。その中で、日本経済が大きく発展し、世界に対して打って出る外交が実施されることを、総領事館としても望んでおります。

マレーシアに目を移すと、政治の季節がやってまいっております。7月11日にはジョホール州の州議会議員選挙、8月1日にはヌグリ・スンビラン州の州議会選挙が行われます。また、ゆくゆくは、ペナン等においても州議会選挙が行われることになっております。現在のマレーシア政治は、長く続いた安定政権の後の長い調整期間にあると思われるかもしれませんが、どのような政治状況になっても、総領事館としては、日本及び日本企業の利益が守られるよう、精一杯努力していくつもりであります。

在ペナン総領事館は、①日本人社会との関係構築／領事業務／日本企業支援、②日本の存在感広報のための広報文化・学術交流事業の実施・支援、③当地政治・経済・社会事情の把握を業務の3本柱とし、また、そのための業務体制の充実を旨としております。

ペナン外への「出張」等については、

6月4日（木）、一時帰国中の小官は愛知県豊橋市の豊橋技術科学大学（TUT）を訪問しました。この訪問では、若原TUT学長及び豊橋市国際交流協会の皆様と意見交換したほか、TUTの教職員及び学生に対し、「失われた30年とその後の希望」と題して講演をいたしました。同講演においては、日本文明から説き起こし、戦後日本政治、最近の日本政治、現政権の経済政策について概述するとともに、日本とペナンの関係、大学教育及び学生の皆様に期待するところを述べました。TUTへの訪問は今回で2回目であり、また、本年2月の天皇誕生日レセプションには若原学長にもお出ましいいただき、TUT及び豊橋についてアピールするとともに、その存在感をチョウ・コン・ヨウ・ペナン州首席大臣にもお示しすることができました。このような形でも、日本とペナンとの更なるつながりをますます振興していきたいと思っております。

6月5日（金）、小官は信州大学を訪問し、TUTと同様に、「失われた30年と今後の希望」と題して、教職員を対象に講演をいたしました。また、中村学長と意見交換し、講演では、日本の大学、学生及び教職員の皆様に期待することを述べました。信州大学の国際化への努力は、中村学長の不退転の決意の下で進められているものと理解しており、今後とも、9月にTUTと合同で行うランカウイ島での活動（後述）を含め、可能な支援をしていきたいと思っております。なお、本年2月の天皇誕生日レセプションには、信州大学の前学長及び関係教授にも御参加いただき、ペナンへの関心について示していただきました。その際には、優れた教授陣のお話もあり、日本の大学の優秀さが十分伝わったものと考えています。

なお、当館館員も、館務を遂行するために、必要に応じて適切な出張を行っています。

政治・行政・経済・外交面では、

6月3日（水）、鳥取県の観光振興関係者が当館矢間首席領事に来訪し、鳥取の観光振興について意見交換しました。適切な形での日本への観光振興は、我が国政府の大きな方針であり、当館としてもその方針に貢献するべく、積極的に活動してまいります。

6月14日（日）、小官は市内で行われたフィットネス関係会社の4周年記念式典に参



加しました。この会社は、当地在住のパキスタン人である Dr. Waqar が創業したもので、通常のフィットネスクラブとしての指導を行うとともに、同氏が医師であることから、自閉症児など障害を持つ人々へのフィットネス指導も行っているという特色ある企業です。同記念式典には、ヨー・ス

ーン・ヒン・ペナン港湾委員会委員長兼マレーシア観光局副委員長も来賓として出席していました。小官からは、Dr. Waqar のような外国からの才能を引き寄せることが、ペナンの財産であり、自信である旨を述べました。こういった会合にも参加して日本のプレゼンスを示すことは、一つの任務だと考えています。

6月15日（月）、小官は市内ホテルで開催された「World Women Economic and Business Summit」に来賓として一部参加しました。同会合には、当地で知名度の高い出席者も多く参加しており、来賓や各講演者からは、マレーシア及びペナンにおいて女性の社会参画は比較的進んでいるものの、それを更に進めていくことが経済発展のためにも重要であるとの指摘がなされました。小官としても、大変勉強になるとともに、日本においてもこの問題をきちんと考えていかなければならないと認識した次第です。同日、小官は当地の大手建設会社 M. E. I. Project のダトスリー・リン・コック・コン CEO 及び日揮グロー





バル株式会社の我妻徹シニア・マネジャーの来訪を受けました。両社は、当地での各種プロジェクト展開のために連携しているとのこと。今後、当地ペナンの日本人・日本ビジネス関係者への紹介などを通じ、日本・マレーシア／ペナンの経済関係が進むよう、側面支援していきたいと思っています。

6月16日（火）、小官は矢間首席領事とともに

に、当地ペナン州政府のシンクタンクである「ペナン・インスティテュート」（Penang Institute）を訪問し、ウィー・キー・ベン所長を表敬しました。ウィー所長とは、当館として長きにわたる関係を有しており、様々な局面で意見交換を行っております。また、「ペナン・インスティテュート」が主催する会議にも小官はたびたび出席しております。今後とも、各種知的交流等で連携していきたいと思っておりますし、「ペナン・インスティテュート」が出すペナン州政府に対する提言等にも注目していきたいと思っています。



6月18日（木）、小官は市内ホテルで開催された、RHB銀行及び「ペナン・インス



ティテュート」共催による「Penang Economic Forum 2026」に出席しました。この会議は、主にペナン経済及びペナンの中小企業の今後について議論するものであり、スティーブン・シム起業家・協同組合開発大臣も出席し、終日、中小企業をどのように振興していくかについて熱心な議論が行われました。また、会議の最後には、スティーブン・シム大臣とウィー・キー・ベン「ペナン・インスティテュート」所長との対

談が行われ、ペナン及びマレーシアの経済を、従来の加工貿易的な産業、すなわち「Made in Penang」「Made in Malaysia」から、「Made by Penang」「Made by Malaysia」へどのように変えていくかについて、同大臣から話があり、活発な質疑応答が行われました。シム大臣からは、個人的に小官に対し、また会合の発言の中で、アンワル首相の訪日に同行して最近訪日し、その際に高市総理にもお会いしたが、非常に素晴らしい人物であった旨の日本への言及がありました。今後とも、ペナン及びマレーシアの中小企業の振興は、ペナン及びマレーシア経済の発展に非常に重要な案件であるので、引き続き注目していきたいと思

6月18日（木）、小官は、ヨー・スーン・ヒン・ペナン港湾委員会委員長兼マレーシ

ア観光局副委員長の当地会計士協会への法律顧問任命式に出席し、その後の昼食にも出席しました。 ヨー・スーン・ヒン氏は弁護士であり、同協会との間で法律顧問として契約することになったものです。かかる会合にも出席することで、当地での人脈の維持・形成を行っていききたいと思います。



6月19日（金）、小官は矢間首席領事とともに、当地在タイ総領事館を訪れ、2026年6月11日（木）に逝去されたタイのバジラキティヤバ王女（Princess Bajrakitiyabha Mahidol）の弔問記帳を行ないました。 タイは日本とは伝統的な友好国であり、今後とも当地においても関係を維持・発展させていきたいと考えています。



6月23日（火）、小官は矢間首席領事及び日本企業関係者とともに、ペナン島南部沖で埋め立て・建設が進められている「Penang Silicon Island」（PSI）を視察し、その後、Penang Infrastructure Corporation 社のオフィスにおいて事業説明を受けました。 Penang Silicon Island は、ペナン開発のための一大プロジェクトであり、LRTと同様、ペナン経済活性化の重要なプロジェクトとなっています。現在のところ、20%から30%程度の埋立てが順調に進んでいるとのことですが、今後も定期的に視察することにより、日本企業にも有益な情報を収集していきたいと思います。

6月24日（水）、小官は Sungai Ara Community Ambulance を訪問し、数年前に実施した草の根・人間の安全保障無償資金協力の現状を把握するとともに、現地の救急事情について説明を受けました。 同NGOでは、ペナン総合病院と同じシステムの下で、主にペナン島東南部地域における救急活動に従事しているとのことでした。今後も、ペナン社会の現状を知るため、こうした現場にも積極的に訪問していきたいと思います。また、マレーシアは上位中所得国であるとはいえ、このような社会インフラにはなお不十分なところもあるため、当館としても、我が国としても、案件の発掘にできる限り努力していきたいと思います。



6月27日（土）、小官は市内アヤル・イタムの Sunshine Central Penang で開催された、Penang Walkabouts 主催の「Penang Lang Community Day 2026」に参加しました（Langとは福建語で人を意味します。したがって、Penang Lang はペナン人という意味になります）。Penang Walkabouts は10年前に創始され、ペナンの様々な観光資産を歩きながら再発見する試みとして始まったものであり、今回10周年を迎えたものです。この10周年



を記念して、アヤル・イタム地区において、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当E X C O、ジョセフ・ウン州議会議員（アヤル・イタム選出）、また今回タイから出し物を提供した当地在タイ総領事館の出席も得て、開会式が行われ、小官もこれに出席しました。我が国関係では、マレーシア合気道無心館道場及びHanaBana Hobbies が出展し、剣道の殺陣の実演も行われました。小官は、Penang Walkabouts が実施する散策にも過去何度か参加しており、その縁でこのようなイベントに招待されたことは非常に光栄なことだと思っています。今後とも、現地の人たちとの人脈の形成に力を入れていきたいと思っています。

日本人社会・日本企業との関係では、

5月26日（火）、ペナン日本人会定例理事会が開催されました。小官は日本へ一時帰国中であったため、矢間首席領事に出席してもらいました。同理事会では、日本人会の運営、日本人学校の運営等について活発な議論が交わされたものと承知しております。

6月12日（金）、小官は市内ホテルにおいて開催されたペナン三水会・J A C T I M ペナン部会合同例会に出席しました。同例会では、各団体からの近況報告が行われるとともに、最近のペナンの雇用に関する専門家の説明や、今回で3回目となるビジネスマッチングでのプレゼンが行われました。当館としては、このような機会を通じて、日本とマレーシア、日本とペナンの関係について説明・意見交換する機会を持つとともに、当地に進出している日本企業及びペナンへの進出を検討している日本企業の皆様をできる限り支援していきたいと思っています。

6月22日（月）、小官は長坂在外公館料理人とともに、G A B A N Spice Manufacturing を訪問し、同社の操業状況について説明を受けるとともに、工場内を見学しました。当地において食品関係で稼働している日本企業は必ずしも多くないところ、非常に有意義な見学となりました。長坂在外公館料理人にとっても、当地日本企業の活動を理解する上で有意義な訪問になったと思っています。



6月30日（火）、ペナン日本人会6月定例理事会が開催され、小官が出席しました。同理事会では、日本人会及び日本人学校の活動について報告の共有がなされ、ともに出席した南野領事（安全対策担当領事）から安全情報の提供も行いました。また、今後の日本人会及び日本人学校の魅力向上についても、多角的な議論が交わされました。

総領事館としては、今後ともペナン日本人会及び日本人学校への支援を、微力ながらも

全力をもって実施していきたいと思います。

文化交流・報道・学術交流関係では、

5月30日（土）、「Elo Uwa Fest 2026」が Island 88 Mall で開催されました。小官



は一時帰国中であったため、小林広報文化担当領事に出席してもらいました。同イベントは、Elo Media Sdn. Bhd.が主催し、日本と韓国をテーマとして、コスプレコンテスト、J-POP コンサート、各種ブース等が行われ、多くの来場者で賑わったものです。今後とも、このような日本文化紹介活動には注目し、必要に応じて支援してまいります。同

日、総領事館において、日本人芸術家の中山一人氏の来訪を受けました。小官は一時不在であったため、小林広報文化担当領事が対応しました。中山氏は現代彫刻家であり、同氏の彫刻はジョージタウンの Karpal Singh Drive にも飾られているとのこと。また、同氏の作品は、当地で芸術活動の振興に当たっている弁護士リー・カイ氏が収集しているものになっています（後述）。当地における知られざる日本人芸術家の活動にも注目し、今後積極的に紹介していきたいと思います。

6月11日（木）、小官は一時帰国から戻った後、市内で開催された第11回「World Miniature Hobby Show (WMHS) Malaysian Competition (MALCOM)」の関係者歓迎食事会に

出席しました。このプラモデル等のコンペティション及び展示販売会は、かつては比較的小規模に行われていたものが、次第に大規模化し、現在では日本を含む東南アジア、豪州、更には欧州、米国からもモデラー



が集結して、その技を競い、あわせて各種商品の展示販売も行われる大きなイベントになっています。小官は同歓迎食事会において、日本から審判として参加していた伝説的なモデラーの方々を含め、関係者と親しく懇談することができました。このような行事にも、ペナンがマレーシアにおけるイベント開催の中心地の一つとして存在感を有していること、また、日本との関係が息づいていることを再認識し、大変嬉しく思いました。



6月12日（金）、小官は総領事館事務所において、日本航空クアラルンプール支店長のご来訪を受けました。この会合では、日本とマレーシア、また日本とペナンとの関係について意見交換するとともに、日本航空が2年に1回のサイクルで実施している俳句コンクールの授賞式をペナンで行うこととなり、その出席依頼を受けました。今回の俳句コンクールは大変盛り上がり、全ての入賞者がペナンから選ばれたとのこと。英

語俳句はなかなか難しく、評価も容易ではありませんが、ペナンからこれだけの入賞者が
出たことは、当地における日本文化への草の根での関心の強さを示すものと思います。同
日、小官は矢間首席領事及び小林広報文化担当領事とともに、「ペナン・インスティテュ
ート」における日本関連書籍の贈呈式典に出席しました。これは、日本財団の支援の下、
東京財団政策研究所が世界の大学及び研究機関に対して行っている事業によるもので、今
回は様々なジャンルから 175 冊の日本関係書籍が
贈呈されました。同贈呈式典において、小官からも
挨拶し、かかる貴重な書籍の贈呈によって、日本と
ペナンとの間の協力関係が更に強化されることを望
んでいる旨を述べました。



6月12日（金）から14日（日）にかけて、バトウ・カワンの EcoWorld Gallery @ Eco



Horizon において、「Japan Cultural Festival 2026」
が実施されました。同イベントは、EcoWorld、JAG
AM（マレーシア元留日学生協会）北部支部及び
VVIN Event の共催によるもので、一昨年から実施され
ているものです。6月13日（土）夕方には開会式が
行われ、小官も出席しました。同開会式は、ウォン・

ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当 E
XCO 等の出席を得て、盛大に行われました。

EcoWorld は、マレーシア全国で極めて大きな規模
で住宅開発、コミュニティ開発を行っている企業
であり、ペナン島内ではなく、海を越えたバト
ウ・カワンにおいて、このような大型の日本文化



行事が実施されたことは大変意義深いものと感じました。この3日間のイベントでは、日
本の現代的な文化の紹介が大変活発に行われました。小官からは、JAGAMによる御尽
力に感謝するとともに、日本文化がペナンの多様な
文化の中の一部として受け入れられていることに感
謝する旨の挨拶を行いました。また、今回の会合で
は、総領事館が単に日本文化紹介を一方的に進める
だけではなく、当地の犯罪防止・安全対策に取り組
むCCPSS（Crime Consciousness and Public Safety
Society）にもブースを設けていただき、その活動紹
介も行っていただきました。さらに、クアラルンプ



ール及びシンガポールから、国際交流基金、自治体国際化協会（CLAIR）、日本政府
観光局（JNTO）にも御参加いただき、日本紹介ブースを大々的に開くことができました。
本来の日本文化紹介、日本紹介という面でも、大きな成果があったと思います。

6月13日（土）、小官はSPICEにおいて開催された第11回「World Miniature Hobby Show (WMHS) Malaysian Competition (MALCOM)」の開会式に出席



しました。同開会式には、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当EXCOも出席しており、同イベントは、以前より



りも更に大きな会場であるSPICEにおいて、大規模に行われました。小官は、日本のモデラーの作品や、日本から参加したモデラーの皆様による審査の様態も拝見し、広大な施設においてこのイベントが行われていることを大変素晴らしいものと思いました。今後とも、こうした行事には積極的に顔を出し、日本のプレゼンスを示していきたいと思います。

6月14日（日）、小官は、当地ショッピングモールであるガーニー・パラゴン内で行われた、6月20日（土）の盆踊り事前イベントに向けてのダンス練習に参加しました。このダンス練習は、主にMJS（馬日協会）の主催によるものでした。

6月16日（火）、小官は小林広報文化担当領事とともに、当地ストーム空手クラブ関係者の来訪を受けました。ストーム空手クラブは、当地において空手を通じた日本文化紹介や青少年育成に取り組んでいる団体であり、これまでの活動や今後の連携について意見交換しました。武道は、日本文化の中でも礼節、鍛錬、規律を分かりやすく伝える重要な分野であり、今後ともこうした草の根の日本文化紹介活動を支援していきたいと思います。今後、日本の空手家が再訪される際には当地の学校で空手紹介をするのも有意義だと思っています。



6月20日（土）、小官は小林広報文化担当領事とともに、ガーニー・パラゴンで開催されたMJS（馬日協会）主催の「Penang Bon Odori Pop Up Festival 2026」及び「Miss Penang Bon Odori 2026 Contest」予選に出席しました。同フェ



スティバルは6月20日（土）及び21日（日）の2日間にわた



り開催されたものです。同会合では、盆踊りで踊られる4つの踊りを踊るとともに、ペナン盆踊りのメインイベ

ントとなるミス盆踊りの予選審査を行いました。同会合には、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当ＥＸＣＯの代理として、コニー・タン州議会議員も出席していました。非常に盛り上がった会合であり、当地の日本関係団体の文化関係行事の実行力がますます高まっていることを実感するところです。

６月２５日（木）、小官は小林広報文化担当領事とともに、Lee Khai 氏（Advisor of Penang District and Chairman of Penang Art Gallery）を訪問し、同氏の有するペナン及びマレーシアの著名な芸術家の作品を鑑賞すると



ともに、ペナンの文化芸術事情について聴取し、今後あり得る日本とマレーシアの協力についても意見交換



しました。この懇談には、Pinang Peranakan Mansion の Lillian Tong 館長も同席しました。このように、今後ともペナンの文化関係者とも広範に接触し、両国の相互理解及び日本文化の紹介な

どにつなげていきたいと思っています。

６月２６日（金）、小官は小林広報文化担当領事とともに、豊橋技術科学大学（ＴＵＴ）のリム・パンボイ教授（学長特別補佐）をはじめとする関係者の訪問を受けました。



この訪問では、先方から、９月５日から１０日まで、ランカウイ島南岸の小島において、ＴＵＴ、信州大学及びマレーシア科学大学（ＵＳＭ）の学生とともに実施するＰＢＬプロジェクト、すなわち問題解決型学習プロジェクトについて説明を受けました。これは、ＴＵＴの国際化の一環として、同大学の３年生・４年生、信州大学の

学生等が集まり、３つのテーマで地域の問題解決に取り組むものです。このような取組によって、日本の学生が世界に通用する人材に育っていくことを、総領事館としても希望しています。また、リム教授からは、ＡＩ時代におけるあるべき大学院教育の姿について、その構想の説明を受けました。当館としては、これらの活動によって、日本の大学・大学院教育が強化され、日本の人材育成が一層進むことを切望しております。

６月２６日（金）、小官は小林広報文化担当領事とともに、ピンク・ハイビスカス代表の山崎英実氏、ＮＰＯ法人海さくら理事長の古澤純一郎氏などの訪問を受けました。この訪問では、６月２７日及び２８日に開催される「Festival Inspirasi Jepun」の中で、２７日に発足するブルー・サンタ・プログラムについて、その背景も含めて説明を受けました。当該日本文化行事は、単に日本文化を一方的に



紹介するものではなく、その中で日本が環境問題を含む当地の社会問題の解決にも微力ながら協力するという姿勢を示す上で、非常に重要だと考えています。総領事館としては、今後ともこうした活動を支援していくつもりです。

6月27日（土）、小官はペナン日本人学校において、MJS（馬日協会）及び日本人会さくら会共催による2026年ペナン盆踊り大会の盆踊り練習に参加しました。

6月27日（土）、小官はペナン市内 Esplanade で開催された「Festival Inspirasi Jepun」



の開会式に出席しました。同開会式には、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州政府観光・創造経済担当 EXCO、ラジェンドラン・P・アンソニー・ペナン市長をはじめとする関係者も出席し、また、ブルー・サンタ・プログラム関係者としてNPO法人海さくらの古澤純一郎理事長も参加しました。小官は開会式の挨拶において、いつもどおり、ペナンの多彩な



文化の一環として日本文化が受け入れられていることに感謝するとともに、今回のイベントの成功を祈念しました。また、日本文化を紹介するだけではなく、ビーチクリーニング活動という重要な環境保護活動が当地で立ち上がる



ことの意義を強調しました。その後、古澤理事長から、ブルー・サンタ・プログラムの立ち上げについて紹介がありました。この日は断続的に夜遅くまで、25チームが参加したよさこい

の演舞が行われ、午後11時までに全ての表彰が行われた後、最後は「総踊り」という形で締めくくられました。マレーシア全国から、また外国から集まった皆様が、よさこいという共通の文化を共有する姿は大変美しく、2日目には日本の現代文化も紹介される一大イベントとなったことに、お祝いを申し上げます。総領事館としても、「日本語パートナーズ」の皆さんの支援も受け第1日目にブースを開き、日本文化の紹介に努めました。



総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！今後も、日本

とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、小官個人のものです。